

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	唐津市立鏡中学校
-----	----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	未達成の項目もあったものの、生徒の主体的な活動を重視した教育課程をおおむね推進することができた。学校行事の参観や、合唱コンクールなど、等での配信を行い、できるだけ保護者にも生徒の様子を参観いただくことができた。今年度も生徒の出番・役割・承認する活動に重きを置き、生徒個々の自己肯定感を高めるとともに人とかかわりを大切にする事で学級や集団の力を伸ばしていく。学力向上に関しては、これまでの研究の蓄積を発展させ、生徒が「使えた」と実感できる「パフォーマンス課題」を単元の中に組み込み、学んだことを実際に使えた達成感から「学びに向かう力」の向上を図り、学力向上を目指したい。
------------------	--

2	学校教育目標	We love 鏡中
---	--------	------------

3 本年度の重点目標	① 職員、生徒、保護者等、鏡中に関わる全ての人が、「鏡中 大好き」と言えるような教育活動の推進
	② 授業規律の確立と生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業の展開
	③ 自他とともに認め合い、互いを思いやり尊重できる人権・同和教育の推進
	④ 生徒の自己指導力の育成を図るため、「生徒指導の4機能」を生かした教育活動の推進
	⑤ 全職員が自分の持ち味を生かしながら、積極的に学校運営に参画できる体制の確立
	⑥ 保護者・地域・小学校・上級学校等との連携及び相互理解による「開かれた学校づくり」の推進

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○各教科での学びを「使える」から「使えた」と評価できる生徒の育成を目指す指導の工夫	○生徒アンケートにおける各教科の「授業内容はよくわかる」に肯定的に答える生徒80%以上。	・これまでの取り組みを継続しつつ、全職員の共通理解のもと「できる」「わかる」「使える」というステップを意識した授業を展開する。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「人が困っているときは、進んで助けたい」と肯定的な回答をした生徒が80%以上。	・人権に関する講演会や集会を実施し、生徒が差別やいじめを見抜く力を養う。 ・保護者、地域と連携したボランティア活動を行う。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価保護者アンケートにおいて、「学校は、安全・安心で、いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価90%以上。	・生徒に対して生活アンケートを実施し、対応する。 ・いじめ対応についての研修等を年間に3回以上行い、いじめの認知、初期対応、指導、再発防止等の共通理解を行う。		・		・		・	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・教職員が開発的生徒指導の実践を行う。 ・学級活動や総合学習を中心に、学校教育活動全体で夢や目標、キャリア教育の実践を行う。		・		・		・	
	○「We love 鏡中」をキーワードに「命を大切に、自分を大切に、他人を大切に」できる生徒の育成を目指す教育活動	○学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的回答80%以上。	・教師が仕組む授業だけでなく、SCやSSWによる講話や、外部人材の活用による授業展開を行う。		・		・		・	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上。 ○毎日朝食をとって登校する生徒95%以上。	・給食だよりを周知する。 ・家庭科の授業や給食時間の放送を中心に、食に関する関心を高める。		・		・		・	
	○安全に関する資質・能力の育成	○外部から講師を招いて、学年単位で防災教育を実施する。	・日本赤十字社(佐賀支部)から講師を招聘し、生徒を主体とした防災に対する講演、体験会を行う。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教職員一人ひとりが担当する業務について、効率化の視点から見直しを行う。 ・業務記録表を使って、業務改善をすすめ、月当たり80時間以上の超過を減少させる。前年度比10%減、学校閉庁日の設定を実施する。		・		・		・	
	○勤務時間を意識した働き方の実施	○「業務改善を推進する・働き方改革を推進している」と回答した教職員80%以上。	・校務分掌や日々の業務について、個人に負担がかからないようにする。また、業務に組織的に対応する体制を構築し、実行する。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○教員の専門性の向上及び意識の改革 ○「チーム鏡」での組織的な対応	○特別支援の視点による生徒対応力が向上した教員が80%以上。 ○学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的回答80%以上。	・特別支援教育に関する研修会を実施し、共通理解を図る。 ・支援会議の開催と配慮を要する生徒への職員間の情報共有を行う。 ・SCやSSW、医療機関等、外部機関との積極的に連携する。 ・ユニバーサルデザインを意識した環境整備を行う。		・		・		・	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開発的生徒指導の推進	○自己肯定感を高める開発的生徒指導の推進	○「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒90%以上 ○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した生徒75%以上	・教育活動全体を通して、役割・番・承認の場の設定する。 ・生徒主体の活動を設定する際に、話し合う活動を基に進めることで成功体験を経験できるように仕組む。		・		・		・	
○SDGsの視点を意識した教育活動の展開	○SDGsの担い手となる人を育てる「質の高い教育の提供」	○SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教員80%以上。	・「SDGs～持続可能な開発目標～」の視点を意識した学習活動を通して、持続可能な社会を創るために学び続ける必要性を伝える。		・		・		・	

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------